

■七宝焼キャラ 生みの親

あま市の伝統工芸、七宝焼のマスコットキャラクター「あかすけゆうやくん」を生み、シールにして売り出すデザイン会社。経営するのは旧七宝町で育ち、「地元の活性化につながる事業をしたい」と意気込む猪飼宏泰さん(三七)だ。

旧町内にある猪飼さん宅の一室と、併設された六畳一間の事務所が工房だ。もう一人の社員、パート三人との小所

わがまち
企業
最前線

エムアイエス (あま市)



「あかすけゆうやくん」のシールを専用機械で作る猪飼宏泰さん(右)と田口祥造さん。あま市七宝町下田の「エムアイエス」で

帯。精鋭メンバーが新たなアイデアを練っている。これまでレーシングカーの改造や装飾を手がけ、デザインはまだ副業だ。猪飼さんは「本物の七宝焼に興味を持ってもらえなきゃいけない」と、シールを重ね合わせる装飾「ラッピング七宝」の形に切り出し、重ね

に貼っている最中、下地が銀色だと七宝焼のような輝きが生まれることに気が付いた。「あかすけゆうやくん」を誕生させた。

宝を開発。そのPRも兼ねて、赤色で透ける伝統的な釉薬を塗った花瓶をモデルに、専用機械でシールをキャラクタの形に切り出し、重ね

合わせでは空気が入らないよう手作業で。神経を使う仕事だが、祖父譲りの庭師も続ける猪飼さんは「指先を使うのは得意なんですよ」と笑顔を見せる。

もう一人の社員は、別のデザイン会社から引つ張った田口祥造さん(三七)。パソコンを使ったデザインが専門。かつて官公庁からの仕事を受注したり、講師として活躍したりしており、猪飼さんは「大切なパートナー」と信頼を寄せる。

「ラッピング七宝」で七宝焼窯元の看板を作ったり、市関係者の依頼で市章をサンプリ制作したりと、人気は広がっている。「原材料費が高くて、手間も考えると、今はもうからない」と猪飼さん。生産の効率化が急務になっている。

会社は来年四月ごろから、実際の七宝焼も窯元として作る。「今までにないものを作りたい」。猪飼さんの目が輝いた。(伊藤隆平)

エムアイエス 2009年12月設立。資本金300万円。従業員は社長の猪飼さんを入れて5人。社員を募集している。あま市七宝町下田堂中648の1。電052(449)5700